HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代朝鮮語における接頭辞들이について
Author(s)	門脇, 誠一
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 104, 125-149
Issue Date	2001-06-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33995
Type	departmental bulletin paper
File Information	104_PL125-149.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 104 (2001)

現代朝鮮語における接頭辞들이について

門脇 誠一

はじめに

本稿は、現代朝鮮語の接頭辞に関する研究の一環として、門脇 (1997,1998, 1999) で行った내, 내리, 치の分析に引き続き、接頭辞들이に関する分析を行うものである。今回扱う接頭辞들이は、接頭辞내と意味的に対立するものであり、後者が「出す」という意味の自立語に起源を持つ語であるのに対して、前者は「入る」という意味の自立語に起源を持つものと考えられているものである。

ここで扱う接頭辞들이は、「外から中に」「やたらに、むちゃくちゃに、しきりに」「急に、突然」という「方向」と「強調」の意味を語基の意味に付加するという性質を持つものである。

本稿で扱う接頭辞들이について、もう少しはっきりと全体像が見えるように説明を加えれば次の通りである。

朝鮮語の들이다は他動詞で、日本語の「入れる;(資金・労力を) 投入する; (誠意を) 尽くす」などにほぼ対応するが、「興味を持つ; 寝つかせる; 染める; (動物などを) 慣らす」といった意味でも使われる。

接頭辞들이はまた、들이켜다~들여켜다, 들이파다~들여파다, 들이세우다~들여세우다, 들이대다~들여대다, 들이마시다~들여마시다, 들이쉬다~들여쉬다のようにいくつかの語においては들이다の連用形である들여と交替して現れることもある。そして、この2つの形には意味の違いがあるものもある。[1]

---

[1] インフォーマントによると들이마시다と들여마시다、들이쉬다と들여쉬다、들이파다と들여파다については意味の違いは感じられないと言うが、들이대다と들여대다については、前者には「水を引く; 金を投資する」という意味があるが後者にはないという。また、들

そして、また接頭詞들이は부수다，쑤시다，족치다，퍼붓다などの語においては들부수다，들쑤시다，들족치다，들퍼붓다のように縮約形들となって現れることもある。

また、他方では、몰아들이다「追い込む」끌어들이다「引き入れる；引きつける」などのように複合動詞の後項動詞としても使用される。さらに、これらには、들이다と意味の上で類似している넣다「入れる」という動詞を後項動詞として形成される複合動詞몰아넣다，끌어넣다という形もあるという具合になかなか複雑である。

これらの現象は接頭辞내，내리においても同様に見られたものであるが、それらに関する全体的な考察は今回の들이に関する分析が終了した段階で改めて行うことにしたい。

今回の調査に関しては、韓国で出版された『표준 국어대사전（標準国語大辞典)』1998から関連する語を異なり語数として76選びだした。ただ、中には들이울다，들이웃다，들이좋다などインフォーマントが使用しないという語が入っているのでそれは除いてある。ただ、インフォーマントが使用しないと言う語の中でも、들이굽다のようにKAISTの検索で現れたものは入れてある。[2]

なお、今回協力を得たのは、北海道大学大学院文学研究科言語学専攻　金恒汨氏（全羅道出身1969生）である。

本論を書くに当たって使用した辞書は次の通りである。

『조선말사전』	(조)	1962	(朝鮮民主主義共和国)
『朝鮮語大辞典』	(朝大)	1986	(日本)
『朝日詞典』	(朝中)	1993	(中国)
『국어대사전』	(대)	1993	(韓国)
『朝鮮語辞典』	(朝)	1993	(日本)
『표준 국어대사전』	(표준)	1998	(韓国)

이세우다と들여세우다については、前者には後者にない「(ある地位や位置に) つかせる」という意味を有している。また、들이켜다と들여켜다においては、前者には헛물을 들이켜다「骨折り損をする」という表現が可能だが、後者にはないと言う。

[2] KAISTというのは、韓国語用例検索でWebページ KAIST Concordance Program (以下KAIST) URL (http://csfive.kaist.ac.kr/kcp/) のことである。

1．本論

以下に、現代朝鮮語における接頭辞들이について分析していくことにするが、必要に応じて接頭辞들이と類似の振る舞いをする들이다の連用形들여との関係、それに들이다が後項動詞として現れる複合動詞とも関連づけて考察することにしたい。以下、接頭辞들이が動詞語基に前接する形を들이形，들여が動詞語基に前接する形を들여形と呼ぶことにする。

1．1接頭辞들이に関する先行研究

管見によれば、これまで接頭辞들이だけを扱った論文はないようである。何らかの形で接頭辞들이に触れている論文で筆者が目にしたのは金鍾塤（1973）김정은（1995）김계곤（1996）の3つと、後は辞書の記述だけである。

A. 金鍾塤（1973）では、한글학회（ハングル学会）編の「큰사전」に載っている接頭辞の中から古語と方言を取り除いたものが表にしてあげてある。そこには들이の形は見えず、들の形だけがあがっている。そして、語源として野（들），들이，들입다の3つをあげ、語義として、「野生・入口・極盛・極甚」の4つをあげ、基語の品詞別分類、つまり後項要素となる語基として「体言・用言」の2つをあげ、最後に接頭辞用例として들깨（荏胡麻），들머리（初めの部分），들볶다（いじめる），들부수다（壊す）の4つをあげている。

金氏は上の辞書の記述を批判して、「들の注釈を들입다の意味だけで解釈しているが、これは「들（野)、들다（挙)，들어가다（入口)，들입다（やたらに、しきりに）その他純粋の接頭辞として注釈すべきだ」と述べている。[3]

ここで、接頭辞として扱っている들は本論で扱っているものとは一部重複してはいるが、同じものではない。들の語源としてあげられている들（野)，들이，들입다の3つのうち、最初の들（野）は体言だけに付くものであり、本論で扱っているものとは全く関係のないものである。後の2つのうち、들이は副詞들입다の縮約形であって、動詞들이다とは直接関係のないものである。勿論、本論で扱う接頭辞들이は副詞である들입다の縮約形들이と意味の上で関連性があるのだが、その点に関するこれまでの議論が明瞭でなかったため

[3] 金鍾塤(1973)『国語学資料〔論文集〕第二輯　形態論所収』p370

いろいろな混乱が起きていると思われる。このことに関しては後述することにする。

B. 김정은（1995）では、接頭辞の一つとして들이をあげ、들이の付く派生語を25個あげている。その中には들이먹다, 들이울다という語が入っているが、インフォーマントが使用しないということと、KAISTの用例にもあがっていない語なので本稿からは除いてある。あとの23個はすべて調査の対象に入っているものである。そこでは、さらに、接頭辞들との関連についても言及している。それによると、들は「やたらに、ひどく」という意味を表すが、들이はそれに加えて「急に、突然」という意味まで持っている、としている。[4] しかし、それ以上の記述はない。

C. 김계곤（1996）には、接頭辞として扱うには問題があるものの一つに들이をあげ、次のように説明している。[5]
「들이は動詞들다から派生した들이다の語幹である。それ故、これを接頭辞として扱うことはできないのである。들이 - 밀다, 들이 - 쉬다は非統語的合成語として扱わなければならない。副詞들입다, 들이「むやみに、ひどく、力強く」の用法とは異なるものと扱わなければならない。表記上でも들と書かなければならない理由はない。動詞들이다の語幹들이と異なる副詞は드립다, 드리と表記し、お互いに区別をつける必要がある。」

ちなみに、내についても、26ページに次のような説明がある。「내は辞書の解釈通り“外へ送り出す動作を表す語”例えば내가다, 내걸다, 내놓다などの내は接頭辞と扱うことはできない。しかし、내닫다「急に力強く走り出す」내뿌리다「力いっぱい撒く」내뻗다「①外へ力強く伸びる②終始一貫行う」などの내は接頭辞として扱われる」としている。

D. 辞書の記述
それでは、辞書の記述はどうなっているだろうか。それを見ることにしよう。

---

[4] 김정은(1995) p44

[5] 김계곤(1996) P44

『조선말사전』(조)『朝鮮語大辞典』(朝大)『국어대사전』(대)
『朝日詞典』(朝中)『朝鮮語辞典』(朝)『표준 국어대사전』(표준)
下の表は、上の５冊の辞書において、들이がどのように扱われているかを整理したものである。

	조	朝大	대	朝中	朝	표준
들이	副詞 接頭辞 方向 ・強調	副詞 強調	副詞 接頭辞 方向	副詞 接頭辞 強調	副詞 接頭辞 方向 ・強調	副詞 接頭辞 強調

この中で『朝大』だけが副詞の扱いをしており、接頭辞の表示がない。

들이の項には들입다の省略とあり、들입다の項には「（継続的に）むやみに、やたらに」とある。つまり、들이には「強調」の意味だけしか認めていないことになる。

一方、見出し語にあげられている들이の付いた形を見ると、すべてハイフンが付けられている。ハイフンの表示は、「見出し語が合成語・接頭辞・接尾辞・語尾である場合その接続個所を示す」とあり、しかも、問題の들이は自立性のない形式であるから、おそらく接頭辞と見ているのだと思われる。そして、들이の付いた語、例えば들이쏘다の項を見ると、「①外から中のほうへ射る②継続して激しく射る」とあり、「方向」と「強調」の両方の意味があげられているのである。

「強調」の意味を持つ副詞들입다の縮約形である들이と接頭辞と扱っていると思われる들이の持つ「強調」の意味とはいかなる関係にあるのかが問題になるが、これについては後述する。

他の辞書は副詞と接頭辞両用の扱いをしているが、『대』では接頭辞に「強調」の意味がなく、『朝中』『표준』では、接頭辞に「方向」の意味がない。

ちなみに、『표준』で、내, 내리に対してどのように記述しているかを見ると、내に対しては不思議なことに何の記述もない。내리に対しては、副詞として扱い、その語義の中に「方向」と「強調」の意味を入れている。

1．2

接頭辞들이について分析するに当たり、主に次の点に注目しつつ考察することにする。

1．들이形は「方向」「強調」という2つのパラメータによってどのように分類されるか。
2．対語として내形を有しているかどうか。

2．들이形の意味

들이の形に接頭辞の用法を認める辞書には、들이に対して、後続する語基に「やたらに、ひどく」「突然、いきなり」といった「強調」の意味、「外から中に」といった「方向」の意味の両方を認めているものが多い。

今、들이形を意味の上から分類するに際して、「方向」と「強調」という2つのパラメータに、対語として내形が存在するかどうかという特徴を加えて分類すると次のようになる。

2．1 対語として내形が存在するもの

A．方向＋強調＋

1．他動詞

들이끌다 들이던지다 들이몰다 들이밀다 들이쌓다

2．自動詞

들이치다2

ここに属する動詞は対語として내形を有するので、内外の「方向」の対比を比較的明瞭に表していると思われる。

ただ、들이밀다と形の上で対立している내밀다は「押し出す」という意味の他に「差し出す；姿を表す」という意味でも使用され、さらには、「突き出る」といった自動詞の意味でも使用され、意味の特殊化を起こしている。また、ちなみに、それぞれの動詞が有している語義との関係を見てみると以下の通りである。

들이끌다：끌다の有する語義のうち、「引きずる、引っ張る；(人) を誘う、引き入れる」という意味と結びついている。

책상을 들이끌어서 마루에 흠집이 생겼다.「机を引っ張ったので床に傷がついた」(표준)

수레를 자기 쪽으로 들이끌다.「車を自分のほうへ引っ張る」(표준)

들이몰다：몰다の有する語義のうち、「追いやる；運転する」という意味と結びついている。

화가 난 그는 자동차를 시내 쪽으로 급하게 들이몰았다.「頭にきた彼は自動車を街のほうへ急いで走らせた」(표준)

아저씨는 소를 외양간으로 들이몰았다.「叔父さんは牛を牛小屋へ追い立てた」(표준)

들이밀다：밀다の有する語義のうち、「押しやる；押しつける」という意味と結びついている。

전철을 타려는 사람들이 내 몸을 들이미는 바람에 넘어질 뻔했다.「地下鉄に乗ろうとする人たちが私の体を押し込んだ拍子に転びそうになった」(표준)

그는 이혼 서류를 아내 앞에 들이밀었다.「彼は離婚の書類を妻に押しつけた」(표준)

次の「金品を浪費する；つぎ込む」という意味は들이が付いたために新たに獲得したものと考えられる。

노름에 전 재산을 들이밀다「賭博に全財産をつぎ込む」(표준)

들이쌓다：쌓다の有する語義のうち、「物を積む；建物などを築く」という意味と結びついている。

사람들이 쓰레기를 길가에 들이쌓아 놓아 지저분했다.「人々がゴミを道端に積んでおいているので汚らしかった」(표준)

B.「方向」+「強調」−

1. 他動詞

들이굽히다 들이긋다 들이비추다 들이비치다1 들이세우다 들이쉬다

2. 自動詞

들이굽다 들이비치다2

1. 他動詞

굽히다は굽다の他動詞であるが、들이굽히다の形はほとんど使われないという。それでも내굽히다と들이굽히다が同一の文に現れれば意味は理解できるという。

ちなみに、それぞれの動詞が有している語義との関係を見てみると以下の通りである。

들이긋다：긋다の有する語義のうち、「線を引く；息を吸いながら声を出す」という意味と結びついている。

줄을 안쪽으로 들이그어라.「線を内側に向かって引きなさい」(朝)

"으악" 들이긋는 소리와 함께「ウワッという息を吸いながら出す声とともに」(KAIST)

이른 새벽에 잠에서 깬 그녀는 창문을 열고 차가운 아침 공기를 가슴 속 깊이 들이그었다.「明け方眠りから覚めた彼女は窓を開け朝の空気を胸いっぱいに吸い込んだ」(표준)

들이비추다：비추다の有する語義のうち、「照らす；映す；ほのめかす」という意味と結びついている。

들이비치다1：他動詞비치다の有する語義のうち、「姿を見せる」と言う意味と結びついている。

들이세우다：세우다の有する語義のうち、「立てる」という意味と結びついており、さらに、「(ある地位や位置に) つかせる；迎える」という意味を新しく獲得した。

우산을 현관 안에 들이세웠다.「傘を玄関の中に立てた」(朝)
조카를 양자로 들이세웠다.「甥を養子に迎え入れた」(朝)
형님은 막내아우를 부장 자리에 들이세워셨다.「兄は一番下の弟を部長につかせた」(표준)

しかし、次のような例は、内外という「方向」ではなく、相手または、ある対象に向かってという意味を表すものである。

고개를 다 넘도록 그곳에 서 있다가 이윽고 말을 지름길로 들이세웠다.「峠をすっかり越えるまでそこに立っていて、やがて馬を近道へと寄せた」(KAIST)

말 위에서 몸을 굽신하고 말을 옆걸음 걸려 감사 가까이 들이세우며 말머리 하나쯤 뒤떨어져 따라갔다.「馬の上で体をゆすって馬を横歩きさせ監査の近くに寄せて立て頭一つほど遅れて後に従った」(KAIST)

들이쉬다：쉬다の有する語義のうち、「呼吸する」という意味と結びついている。

숨을 깊이 들이쉬고 내쉬는 소리가 들렸다.「息を深く吸ったり吐いたりする音が聞こえた」(KAIST)

2．自動詞

들이굽다：굽다の有する語義のうち、「曲がる」という意味と結びついている。

우리나라 속담에 "팔이 들이굽지 내굽나." 라는 말이 있다.「わが国の諺に、腕は内側に曲がるもので外側に曲がろうか。(ことを自分に有利なように処理するのは人情の常である)(KAIST)

ちなみに、(표준) に들이곱다という語が載っており、次のような文があがっているが、ほとんど使われていないようである。

추위에 손가락이 들이곱아 글씨를 쓸 수가 없다.「寒さで指がかじかんで(内側に曲がって) 字が書けない。」

들이비치다2：自動詞비치다の有する語義のうち、「照る；透けて見える」という意味と結びついている。

십오야 밝은 달이 환히 들이비치는데「十五夜の明るい月の光が差し込んでいるが」(KAIST)

C．方向－強調＋
1．他動詞
들이갈기다 들이꽂다 들이대다 들이박다 들이받다 들이부수다
들이지르다 들이찌르다 들이찧다 들이차다1 들이치다1 들이패다
들이퍼붓다1

2．自動詞
들이닫다 들이박히다 들이차다2 들이퍼붓다2

このグループに属する語には、「殴る；ぶつかる；壊す；蹴飛ばす」といった「打撃動詞」が多いのが特徴である。

ちなみに、それぞれの動詞が有している語義との関係を見てみると以下の通りである。

1．他動詞
들이갈기다：갈기다の有する語義のうち、「殴る；小便をする；書く」と言う意味と結びつく。「小便をする」という意味では갈기다という語があるが、しばしばこれと混同されて使用される。

들이꽂다：꽂다の有する語義のうち、「刺す；投げ飛ばす;(サッカー・バスケットなどで) シュートを決める」という意味と結びつくが、「飛行機が機首を下げる」という意味でも使用され、들이が付いたため新しい意味を獲得したものと考えられる。

들이대다：대다の有する語義のうち、「当てる、触れる；話す;(田畑に) 水を引く」という意味と結びついている。

어느날 밤 최준의 집에 복면강도가 들어와 그의 목에 칼을 들이대고 잠을 깨웠다.「ある夜チェージュンの家に覆面強盗が入り彼の首にナイフを突きつけて眠りを覚ました」(KAIST)

불평을 들이대고 큰소리를 쳐야 할 사람들은「不満を並べ立てて大声を出さなければならない人々は」(KAIST)

들이박다：박다の有する語義のうち、「打ち込む、はめ込む、突っ込む；縫う」と言う意味と結びついている。

자동차가 담장을 들이박아 담장이 무너졌다.「自動車が塀に突っ込んで塀が倒れた」(표준)

계단을 내려오던 처녀들 가운데 하나의 옆구리를 머리로 들이박고 말았다.「階段を下りる途中の女の子の中の一人の横腹に頭から突っ込んでしまった」(KAIST)

들이받다：받다の有する語義のうち、「ぶつける」と言う意味と結びつく。

한눈 팔다가 머리를 기둥에 들이받았다.「よそ見をして頭を柱にぶつけた」(표준)

헬기가 산봉우리를 들이받고 추락하였다.「ヘリコプターが山頂にぶつかって墜落した」(표준)

들이부수다：부수다には「壊す；砕く」という意味があるが、そのいずれとも結びついている。

들이지르다：지르다の有する語義のうち、「突く；蹴る；声を張り上げる」という意味と結びついている。また、「むさぼり食う」という意味は新たに獲得した意味である。

몽둥이로 도둑의 가슴을 들이질렀다.「棒で泥棒の胸を強く突いた」(朝)

그렇게 고함을 들이지르지 마라.「そんなに大声を張り上げるな」(표준)

하루 종일 군것질을 들이지르니 정작 밥은 못 먹지.「一日中間食をがつがつ食べているから本来食べるべきご飯は食べられないよ」(표준)

들이찌르다：찌르다の有する語義のうち、「刺す；攻める」という意味と結びついている。

간호사가 아이를 주사기로 들이찔러서 아아가 심하게 울었다.「看護婦が子供を注射器で刺したので子供がひどく泣いた」(표준)

속눈썹이 눈을 들이찔러서 눈이 따끔따끔하다.「睫が目をひどく刺すので目がちくちくする」(표준)

들이찧다：찧다の有する語義のうち、「ぶつける；尻餅をつく」という意味と結びついている。

그녀는 이마를 벽에 들이찧으며 통곡했다.「彼女は額を壁にひどくぶつけて慟哭した」(표준)

들이차다1：他動詞차다の有する語義のうち、「蹴飛ばす；舌打ちをする」という意味と結びついている。

상사는 군홧발로 그의 옆구리를 들이찼다.「上司が軍靴で彼の横腹を蹴飛ばした」(표준)

사정을 듣던 부사가 혀를 들이차고 내차기는 하였으나,「事情を聞いていた府使が舌打ちを何度かしたが」(KAIST) [6]

들이치다1：他動詞の치다の有する語義のうち、「殴る、たたく；攻撃する、攻める」という意味と結びついている。

아군이 적을 들이쳐서 큰 승리를 거두었다고 한다.「我が軍が敵を攻撃し大きな勝利をおさめたという」(표준)

들이패다：패다の有する語義のうち、「殴る、たたく」という意味と結びついている。

그는 주먹으로 닥치는대로 아이들을 들이팼다.「彼は拳で手当たり次第に子供達を殴った」(표준)

들이퍼붓다1：他動詞の퍼붓다には「水などを浴びせる；悪口を浴びせる」という意味があるが、そのいずれとも結びついている。

그는 속이 시원해질 때까지 욕을 들이퍼부었다.「彼は心がすっきりするまで悪口を浴びせかけた」(표준)

2．自動詞

들이닫다：닫다の有する語義のうち、「走る」と言う意味と結びついている。

들이박히다：박히다の有する語義のうち、「打ち込まれる；引きこもる；縫われる」という意味と結びついている。

---

[6] このように들이と내とを対にした表現がしばしば見られる。２人の人間が殴り合う場合내갈겼다 들이갈겼だなどの表現が可能であるが、一人であってもこのように繰り返し動作が行われる時に使用されるようである。

철근이 설계도보다 더 안쪽으로 들이박혀 있어 공사를 다시 해야 한다.「鉄筋が設計図よりも内側に打ち込まれており工事をもう一度しなければならない。」(표준)

길 아래로 굴러서 논바닥에 들이박힌 차「道の下に転がって田圃にはまりこんだ車」(표준)

들이차다2：自動詞차다の有する語義のうち、「満ちる」と言う意味と結びついている。

한꺼번에 방에 들이차는 여름햇살「一度に部屋に充満する夏の日差し」(KAIST)

들이퍼붓다2：自動詞の퍼붓다は「激しく降り注ぐ」という意味であるが、この意味と結びついている。

갑자기 눈이 들이퍼부어 교통이 마비되었다.「急に雪が激しく降りだし交通が麻痺した」(표준)

D．方向－強調－
1．他動詞
なし
2．自動詞
들이돋다

들이돋다：돋다の有する語義のうち、「(吹き出物などが) 吹き出る;(芽などが) 出る」という意味と結びついている。

그녀의 얼굴에 여드름이 들이돋았다.「彼女の顔にニキビが出た」(표준)

장마철이어서 곰팡이가 방안 여기저기에 들이돋았다.「梅雨の季節なのでカビが部屋のあちこちに生えた」(표준)

2．2 対語として내形が存在しないもの

A. 方向＋強調＋

1．他動詞

들이마시다 들이붓다 들이빨다 들이켜다 들이파다

2．自動詞

들이치다1

ここに属する動詞は、外から中へという一方向を表す動詞であるため、対語として내形は存在しない。

1．他動詞

들이마시다：마시다は「飲む；吸う」という意味を有する語であるが、そのいずれとも結びついている。

독한 술을 여러잔 들이마시는 걸 보니 안 좋은 일이 있나 본데.「強い酒を何杯も飲んでいるのを見ると、良くないことでもあるらしいが」(표준)

어염된 먼지를 많이 들이마셔 폐가 나빠졌다.「汚染された埃をたくさん吸って肺が悪くなった」(표준)

들이붓다：붓다の有する語義のうち、「注ぐ；支払う；種を撒く」

붓다には、同音異義語として、「腫れる；(怒って) ふくれる」という意味もあるが、この意味とは結びつかない。

들이빨다：빨다の有する語義のうち、「吸う；なめる、しゃぶる」という意味と結びついている。

아기는 배가 고팠는지 젖을 들이빨았다.「赤ん坊はお腹が空いたのかおっぱいを勢いよく吸った」(표준)

영호는 새로 피워 문 담배를 서너 번 들이빨았다.「ヨンホは新たに火を付けてくわえたたばこを3、4回勢いよく吸った」(KAIST)

들이켜다：켜다の有する語義のうち、「(酒や水などを) あおる」という意味と結びついている。

오빠는 레모네이드 두 잔을 단숨에 들이켜고 가슴을 두드렸다.「兄はレモネードを2杯一息にぐっと飲んで胸を叩いた」(KAIST)

크림빛 비단 의자에 등을 기대앉아 숨을 크게 들이켜 본다.「クリーム色の絹の椅子へ背を寄りかけて大きく息を吸い込んでみる」(KAIST)

들이파다：파다の有する語義のうち、「掘る；掘り下げる、究明する；集中する」という意味と結びついている。

나도 한 가지를 들이파지 못해 나만의 일을 찾지 못한 점은 마찬가지인데도「私も一つのことに集中できず、自分だけのものを捜し出せない点は同じであるが」(KAIST)

2．自動詞

自動詞들이치다2は「(雨・風・雪などが激しく中に) 吹き込む」と言う意味の動詞であるが、形の上で対立している내치다には自動詞の用法はない。

비가 들이치지 않도록 문을 닫아라.「雨が中に吹き込まないようにドアを閉めろ」(朝)

B．方向＋強調－

1．他動詞

なし

2．自動詞

なし

C. 方向－強調＋

1．他動詞

들이끼다1　들이끼우다　들이덮치다1　들이쑤시다1　들이족치다

2．自動詞

들이끼다2　들이닥치다　들이덮치다2　들이쑤시다2

1．他動詞

들이끼다は自他両用の動詞であるが、他動詞として들이끼우다という形もあり、意味用法に差異はない。また、들이쑤시다には他動詞としては、「そそのかす;(何かを探すため) 引っかき回す」という意味があり、自動詞としては、「ずきずき痛む」という意味がある。

들이끼다1：끼다の有する語義のうち、「挟む；はめ込む」という意味と結びついている。

나사못을 들이끼지 말고 홈을 잘 맞춰라.「ネジ釘をはめ込まないで溝をうまく合わせなさい」(표준)

들이끼우다：上と同様「挟む；はめ込む」という意味と結びついている。

동생이 종이를 접어 문틈에 들이끼웠더니 문이 닫히지 않았다.「弟が紙を折ってドアの隙間に差し込んだらドアが閉まらなかった」(표준)

들이덮치다1：他動詞덮치다には「覆う；襲いかかる；突然踏み込む」という意味があり、これらの意味と結びついている。

형사들이 범인의 은신처를 들이덮쳤으나 범인은 이미 도주한 뒤였다.「刑事達が犯人の隠れ家に突然踏み込んだが、犯人はすでに逃走した後だった」(표준)

거센 파도가 해안을 들이덮쳐 해안에 쌓아 놓은 물건들을 말끔히 쓸어가 버렸다.「荒波が海岸に襲いかかり海岸に積んでおいたものをきれいに掃き去ってしまった」(표준)

들이쑤시다1：他動詞쑤시다には「そそのかす；探そうとして引っかき回す；ほじくる」という意味があるが、これらの意味と結びついている。

들이쑤셔 싸움음 붙였다.「そそのかして喧嘩をさせた」(朝)

누나는 사진 한 장 때문에 온 방안을 들이쑤셨지만 결국 찾지 못했다.「姉は写真一枚のために部屋中を引っかき回したが結局見つからなかった」(표준)

수챗구멍이 막혀서 막대기로 들이쑤셨다.「下水管が詰まったので棒で突っつき回した」(朝)

들이족치다：족치다の有する語義のうち、「ぶん殴る；やりこめる」という意味と結びついている。

어서 가서 크게 힘을 길러 가지고 왜놈들을 들이족칩시다.「早く行って力をためて日本の奴らをやっつけましょう」(KAIST)

2．自動詞

들이닥치다という動詞は들이が付くことによって「方向」「強調」以外の文法的な特徴が付与されるという点で興味深いものである。

닥치다は「近寄る、切迫する」という意味を表す動詞であるが、主語としては有情物をとることができない。しかし、들이닥치다となると「強調」以外に有情物を主語として取ることができるし、しかも、意味の上でも、単に「接近する」というだけでなく「複数の人間がその現場に入り込んで、そこにいる人間に危害を加える」ことまでも含んで使われることがある。用例は以下の들이닥치다の項にある。

들이끼다2a：들이끼다1の自動詞形で「間に挟まる」という意味と結びついている。

그들은 밥을 빨리 먹으려고 기다란 줄에 재빨리 들이끼었다.「彼らはご飯を速く食べようとして長い列にすばやく入り込んだ」(표준)

들이끼다2b：「(霧・雲・煙などが) 立ちこめる」という意味の語で、この意味と結びついている。

안개가 들이끼여 코앞도 볼 수 없다.「霧が立ちこめて一寸先も見えない」(표준)

들이닥치다

시간이 닥쳤는데 어쩔 셈이냐?「時間が切迫しているのにどうするつもりか」(朝)

경찰이 노름판에 들이닥쳤을 때는 모두 도망간 다음이었다.「警察が賭博場にやってきた時はみんな逃げた後だった」(표준)

지방권세자의 집을 습격하기도 하고 관청을 들이닥치기도 하였다.「地方権勢者の家を襲撃したり官庁の中に入り込んで危害を加えたりした」(KAIST)

들이덮치다2：自動詞の덮치다には、「一度に押し寄せる」という意味があるが、この意味と結びついている。

불운에 불운이 들이덮치다.「不運の上に不運が押し寄せる」(KAIST)

들이쑤시다2：自動詞쑤시다には「ずきずき痛む」という意味があるが、この意味と結びついている。

썩은 이가 쑤신다.「虫歯がひどくうずく」(朝)

D. 方向－強調－

1．他動詞

들이맞추다

2．自動詞

들이닿다

1．他動詞

들이맞추다：맞추다の有する語義のうち、「合わせる；（離れたものを）くっつける」という意味と結びついている。

상자 같은 것의 네 모퉁이를 어긋맞도록 요철형으로 만들어 들이맞춘 짜임새.「箱のようなものの四隅を互い違いに向き合うように凹凸の形に作りくっつけた形」(KAIST)

부러진 뼈를 들이맞춘다.「折れた骨をくっつける」(KAIST)

2．自動詞

들이닿다：닿다の有する語義のうち、「到着する」という意味と結びついている。

학생들을 태운 버스가 속속 학교에 들이닿았다.「学生達を乗せたバスが続々と学校へ到着した」(표준)

한길로는 자동차가 연방 들이닿았고 총을 든 왜놈 군대들이 자동차에서 우르르 쏟아져내려「大通りでは自動車が次から次と到着し、銃を持った日本軍が自動車からどやどやと下りて」(KAIST)

3．들이は副詞か？接頭辞か？

들이の扱いが辞書によって異なっていることは前述のとおりであるが、では、なぜこのように異なって記述されているのかが問題となる。実は、こうした問題は들이に限ったことではなく、これまで扱ってきた내, 내리についても言えることなのである。

その後、何度かインフォーマントを調査している中に、接頭辞として扱ってきた語であっても、語基との間にポーズが置かれると、副詞들입다の縮約形として意識され、強調の意味として理解されるということがわかった。

方向＋強調＋に属している動詞は、語基との間にポーズが置かれると、方向の意味が消え強調の意味として理解されると言うのである。また、方向＋強調－に属している動詞の場合も、語基との間にポーズが置かれると、やは

り方向の意味は消え、強調の意味として理解されると言う。

一方、方向－強調＋に属する動詞はどうかと言えば、ポーズを置かない場合、強調の意味が感じられるのであるが、語基との間にポーズが置かれると、さらに強調の意味が強まると言う。

このような現象があることが判明したのは들이について調査しはじめてからのことなので未だ詳細には分析してはいないが、他の形式についても同様のことが言えそうなので、今後全体的な考察をしなければならないと考えている。

あるいは、通時的に副詞들입다の縮約形들이と動詞들이다の語幹들이とが合流したために混乱が起きているのではないかとも考えられる。このことも今後の課題として残しておきたい。

結　論

以上、接頭辞들이について分析してきた。これを通して判明したことを箇条書きしてまとめると以下の通りである。

1．接頭辞들이を「方向」「強調」さらに対語として내形が存在するかどうかという3つのパラメータについて分析すると、巻末の参考資料のようになる。それを見ると、これまで分析した接頭辞내, 내리と同様、4つに分類されるが、내形が存在しないもので、方向＋強調－に属する動詞がないことが特徴的である。また、方向－強調＋の特徴を有する動詞が多いことがわかるが、対語として내形が存在する動詞の中には「殴る・蹴る」などの打撃を表す動詞が多いのが特徴的である。

2．들이は語基の意味に「方向」と「強調」の意味を付加する機能を持つと同時に意味を特殊化する機能、また、들이닥치다のように本来非情物しか主語として取らなかったものを、有情物をも主語として取れるようにするといった文法的な振る舞いもすることがある。

3．「方向」－の特徴を有する動詞の中に、내形が共存する場合、門脇（1997）でも触れたことがあるが、韓国では내形が、中国・北朝鮮では들이形が優勢らしい。しかし、中には韓国でも들이대다のように들이形が優勢なものもある。

しかし、例えば２人の人が殴りあいをするような場合、내갈겼다 들이갈겼다という具合に、同じ動作を視点を変えて述べるような場合は両方の形が使用されるようである。この点に関してはまだよくわからないことが多いのでさらに調査する予定である。

４．これまで接頭辞として分析を行ってきた내，내리，들이に関する辞書の記述が異なることについては前から気になっていたが、들이に関する調査をしている際に、語基との間にポーズを置いた場合と置かない場合とで違いがあることがわかった。つまり、語基との間にポーズを置くと、들이は副詞들입다の縮約形として捉えられ、「強調」の意味だけを付加することになり、「方向」の意味を付加することはない。このことは내についても言え、語基との間にポーズを置くと副詞냅다の縮約形として意識されるのである。また、내리についてはソウル方言には副詞形내립다 という語はないようだが、全羅道方言の一部には他の形からの類推形と考えられる내립다という副詞が使用され、同様の振る舞いをするのである。

現在のところ、筆者は副詞들입다の縮約形と動詞들이다の語幹들이とが合流してそれが次第に接辞化したものではないかと考えているが、さらに調査を進める必要がある。

最後に、들이다または넣다を後項動詞とする複合動詞が存在するかどうか。また、들이が前置される派生動詞と들이다，넣다が後項動詞として後置される複合動詞との関係はどうなっているか、といった点については今回は調査できなかった。今後の課題としたい。

巻末資料

接頭辞내と対をなす들이について同様に成分分析を行った結果を示すと以下の通りである。

(1)対語として내形が存在するもの

	내＋			
	方向＋強調＋	方向＋強調－	方向－強調＋	方向－強調－
他	들이끌다 들이던지다 들이몰다 들이밀다 들이쌓다	들이굽히다 들이긋다 들이비추다 들이비치다1 들이세우다 들이쉬다	들이갈기다 들이꽂다 들이대다 들이박다 들이받다 들이부수다 들이붓다 들이지르다 들이찌르다 들이찧다 들이차다1 들이치다1 들이패다 들이퍼붓다1	
自	들이치다2	들이굽다 들이비치다2	들이닫다 들이박히다 들이차다2 들이퍼붓다2	들이돋다

들이비치다1「他　姿を見せる」들이비치다2「自　照る；透けて見える」
들이차다1「他　蹴飛ばす」들이차다2「自　満ちる」
들이치다1「他　殴る；攻撃する」들이치다2「自　雨などが激しく中に入る」
들이닫다「走る」

(2)対語として내形が存在しないもの

	내－			
	方向＋強調＋	方向＋強調－	方向－強調＋	方向－強調－
他	들이마시다 들이붓다 들이빨다 들이켜다 들이파다		들이끼다1 들이끼우다 들이덮치다 들이쑤시다1 들이족치다	들이맞추다
自	들이치다2		들이끼다2a 들이끼다2b 들이닥치다 들이쑤시다2	들이닿다

들이끼다1「挟める；はめ込む」 들이끼다2a「間に入り込む」
들이끼다2b「（霧・雲・煙などが）立ちこめる」
들이쑤시다1「そそのかす；探そうとして引っかき回す」
들이쑤시다2「ずきずき痛む」

参考文献

金鍾塤(1973)「接辞研究－接頭辞를中心으로－」(『国語学資料［論文］集』第二輯　形態論(1981)に所収)
菅野裕臣(1981)『朝鮮語の入門』白水社
김정은(1995)『국어 단어형성법 연구』　박이정
김계곤(1996)『현대 국어의 조어법 연구』박이정
김창섭(1996)『국어의 단어형성과 단어구조 연구（国語の単語形成と単語構造の研究）』国語学叢書21　国語学会
門脇誠一(1997)「朝鮮語の接頭辞내について」日本語と外国語との対照研究IV『日本語と朝鮮語』下巻　研究論文集　　国立国語研究所
門脇誠一(1998)「現代朝鮮語における接頭辞내리について」北海道大学文学部紀要47−3
門脇誠一(1999)「現代朝鮮語における接頭辞치について」北海道大学文学部紀要 48−3